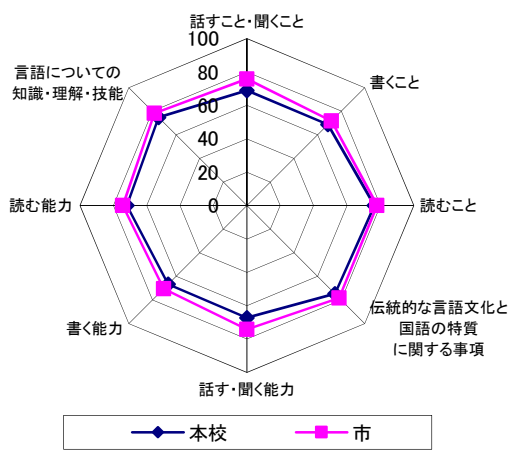


宇都宮市立細谷小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.0	75.9	71.7
	書くこと	68.6	71.8	73.2
	読むこと	76.5	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.7	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	67.3	74.2	70.8
	書く能力	66.7	70.4	71.0
	読む能力	71.9	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	74.7	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

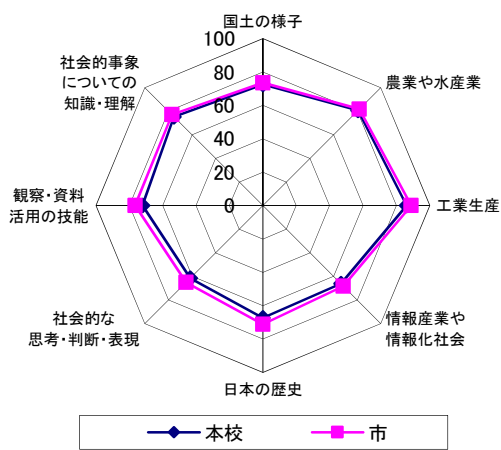
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・本校の正答率は、69.0%で市の正答率75.9%を下回った。 ・話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞き取る問題の正答率は95.4%と高かった。 ・司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことに関する問題の正答率は34.6%と低かった。	・話し合い活動の流れを確認した上で、司会者の役割についても理解を深める必要がある。 ・司会者の役割については、進行の手順をまとめ、それをもとに実際の話し合い活動で活用しながら、司会者の果たす役割を身に付けられるようにする。 ・話し合いの内容は、児童に共通することや関心がもてるものを設定し、話し合い中は、必要に応じてアドバイスをしながら上手いように軌道修正をしていく。
書くこと	・本校の正答率は、68.6%で市の正答率71.8%を下回った。 ・グラフから読み取った事実を文章に書く正答率は、80.0%で市の正答率78.3%を上回った。 ・文章を2段落構成で書く正答率は、75.4%で市の79.8%を下回った。	・作文指導において、作文メモをもとに書く事柄を整理し、構成の工夫として、理由や根拠を、具体的な例を挙げ表現できるように練習をしていく。 ・自分の考えについても明確に書けているかを確認し、無駄な文章は省くようにする。 ・普段からの積み重ねを必要とするので、機会があるごとに実施し能力を高めていく。
読むこと	・本校の正答率は、76.5%で市の正答率78.0%を下回った。 ・目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題正答率は、87.7%で市の正答率86.9%を上回った。 ・文章の内容を的確に読み取る問題正答率は、69.2%で市の正答率77.3%を下回った。	・物語文の学習については、引き続き登場人物の行動や会話文に注意し場面ごとの出来事確かめたり、気持ちの変化を読み取ったりする学習を展開していく。 ・説明文の学習については、段落ごとに詳しく読み取り、小見出しをつけ段落の関係について図示しながら、理解を深められるように指導の改善を図る。 ・与えられた情報を正確に読み取るために、大切な文に線を引いたり書き抜いたりする練習をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・本校の正答率は、74.7%で市の正答率78.2%を下回った。 ・5年生の漢字の読みの正答率は市を上回り、比較的良好であった。 ・5・6年生の漢字を書く正答率が市を下回り、練習が必要である。	・ドリルを使用して漢字の復習を繰り返し行い、5・6年の漢字を身に付けられるようにする。 ・宮っ子学カステップアップシートを活用し、継続的に学習し力を高めていく。 ・家庭学習においても、国語辞典や漢字辞典を使用することにより熟語を増やしたり、漢字の学習にも進んで取り組み正しく読み書きしたりできるよう呼びかけていく。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.6	73.6	76.2
	農業や水産業	80.8	81.9	77.5
	工業生産	86.2	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	66.2	68.2	61.0
	日本の歴史	67.3	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.6	65.1	62.1
	観察・資料活用・技能	72.1	76.5	75.2
	社会的現象についての知識・理解	75.3	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

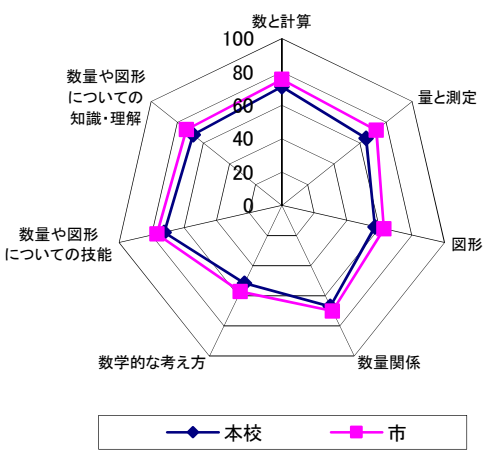
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・本校の正答率は72.6%で市の正答率73.6%を1%下回った。 ・主な国の名称や位置，自然災害については比較的高く，78.5%で，市の正答率よりも4.4%高い。 ・公害や生活環境に関する問題は49.2%と，市の正答率56.9%を7.7%下回っており，再確認が必要である。	・地図をもとに日本の位置や周辺の海洋，国の位置等を確認する。日本と周囲の国々や公害問題については数多く話題となっていることから，日常において時事問題として取り上げ，興味・関心を高めると共に，地理の定着を図る。
農業や水産業	・本校の正答率は80.8%で市の正答率81.9%を1.1%下回った。 ・品種改良の目的について83.1%の正答率であり，市の正答率よりも6.9%高く，理解度が高い様子が見られる。 ・食料生産の分布については83.1%の正答率であり，市の正答率87.9%よりも4.8%低く，地方と生産の様子を見直す必要がある。	・農業や水産業は日常生活と深く結びついていることを再確認し，特色を考えさせるようにする。日本の各地域における食料生産の特色や水産物の水揚げなど，地図や統計などの資料からの読み取りや，報道関係の話題を取り扱うことで，興味・関心を高め，定着を図る。
工業生産	・本校の正答率は86.2%で市の正答率88.9%を3.7%下回った。 ・日本の工業生産が国民生活を支えている様子については96.9%と高い正答率である。市の正答率よりも2.6%高く，理解度が高い ・工業生産に従事している人々による環境保全の取り組みについては正答率が75.4%であり，市の正答率よりも8.1%低いいため，定着を図る必要がある。	・日本の工業生産について，工業地帯や工業地域を地図に記入したり，統計，写真などを使って情報を集め，それぞれの生産の特徴を考え，まとめるようにする。 ・環境問題に関するテーマを取り上げ，時事問題と共に取り組みについて話すことによって，興味・関心を高めるようにする。
情報産業や情報化社会	・本校の正答率は66.2%で市の正答率68.2%を2%下回った。 ・情報ネットワークと国民生活とのかかわりについては正答率が64.6%であり，市の正答率よりも4.5%低い。資料の読み取りや日常場面での活用等を確認する必要がある。	・情報の利用や，情報を得る手段を確認し，ネットワークの長所や短所を紹介し，興味・関心を高めるようにする。 ・情報産業のはたらきや情報化社会について，資料等を活用して調べるようにする。
日本の歴史	・本校の正答率は67.3%で市の正答率71.1%を1%下回った。 ・織田信長の働きの資料の読み取りは92.3%であり，市の正答率よりも2.1%高い。 ・聖武天皇に関する資料の読み取りの正答率は27.7%であり，市の正答率よりも18.8%低くなっている。 ・江戸幕府のキリスト教禁止政策の背景について答える問題は，正答率43.1%となり，市の60.4%よりも17.3%低い結果となった。	・歴史の学習は名称等，暗記をする部分が多いが，各時代の流れと人物関係などを押さえるようにする。 ・人物や時代の流れ，文化などを資料から読み取り，まとめていくことで定着を図る。特に人物の功績，各出来事の内容と起きた理由，出来事同士のつながりや文化などをまとめていく。 ・デジタル教材や図書資料を活用し，歴史に興味をもてるようにする。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.2	75.6	75.8
	量と測定	64.6	72.5	71.2
	図形	57.2	62.8	71.0
	数量関係	67.1	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	51.7	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	72.3	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	68.0	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

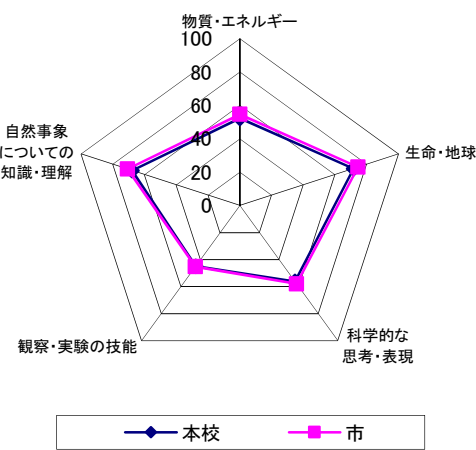
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の正答率は71.2%であり、市の正答率を4.4%下回った。 ・小数の計算では小数第一位×小数第一位の計算・小数第二位÷小数第一位の問題で、76.9%と81.5%と、0.8%と1.3%市を上回った。 ・同じ小数の計算の、除数が1より小さいときに商が被除数より大きくなる選択問題では56.9%と、市の正答率を11.2%下回った。	・各種の計算問題については、引き続き復習と習熟を行っていく。 ・除数と商の関係については、分数小数に関わらずその仕組みについてもう一度復習するとともに、問題を解くときに図を描いたり整数に置き換えたりするなどして考えると解きやすくなることを教えていく。
量と測定	・本校の正答率は64.6%であり、市の正答率を7.9%下回った。 ・単位量当たりの大きさ・速さの選択式の問題では、時速を求める式は81.5%と市の正答率とほとんど変わりなかったものの、速さと時間から道のりを求める(単位換算あり)問題では正答率が29.2%と市の正答率を13.2%下回った。	・時速・時間・道のりの問題は、単位量当たりの大きさ・速さの問題の中でも基本的な考え方であり、もう一度三つの関係についてしっかり復習をさせる。そして宇都宮市のフォローアップワークシートなどを使い類題を解かせることにより、しっかりと定着を図っていきたい。
図形	・本校の正答率は57.2%であり、市の正答率を5.6%下回った。 ・対称な図形を選ぶ問題では線対称では58.5%と市の正答率を8.4%上回ったものの、点対称では53.8%と市の正答率を15.8%下回った。 ・円の直径から円周を求める式を選ぶ問題では38.5%と市の正答率を7.8%下回った。	・点対称な図形の仕組みとその描き方・対称な点の見つけ方についてもう一度復習するとともに、身の周りから対称な図形を見つけさせることにより、線対称や点対称を身近なものとしてとらえさせ理解を深めさせる。 ・円では「円周÷直径＝円周率」であることをしっかり押さえ、円周率は円周が円の直径の何倍であるかということを表していることをもう一度指導する。
数量関係	・本校の正答率は67.1%であり、市の正答率を3%下回った。 ・帯グラフから割合を読み取ったりそれを基に比較量を求めたりする問題では、93.8%と64.6%と前者は0.6%市の正答率を上回り後者は2.4%下回るなどほとんど変わりなかった。 ・割合や比の問題では、割合を使い基準量に当たる値引き以前の値段を求める問題の正答率が26.2%と市の正答率を15.1%下回った。	・割合を表す「小数」「分数」「歩合」「百分率」についてもう一度復習し、その関係と仕組みについて宇都宮市のフォローアップワークシートなどを使い定着をはかる。 ・基準量と比較される量の関係については、比較される量が基準量より多くなるのか少なくなるのかを割合から予想することで答えの間違いに気付かせていく。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	52.3	54.6	57.5
	生命・地球	71.7	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	56.2	58.0	59.6
	観察・実験の技能	44.9	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	67.9	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・本校の正答率は、52.3%と市の正答率の54.6%を少し下回ったが、昨年よりも差は縮みつつある。 ・「物のとけ方」では濾過について正答率が44.6%と市の正答率よりも13.6%低く「物の燃え方」では壺の中の炭が消える理由について説明する問題で41.5%と市の正答率を11.1%下回るなど差が大きい。 ・また市より全体の平均はよいものの、「水よう液の性質」が正答率が20%から30%台と全体的に正答率が低い。	・「物のとけかた」では、「濾過」について用具等も交えてもう一度原理と方法を復習する。 ・「水よう液の性質」については、蒸発し残ったものがあるということから何が残ったのか、また残らなかったものは残らないということから何が溶けていたのかについて考えさせることにより、理科的な考え方を身につけさせる。またそれぞれの水よう液の性質についてその性質と溶けているものについてももう一度復習をする。 ・理科の実験観察においては、専門的な用語が多く出てくることが多い。そのため、出てきた単元でその意味と言葉についてしっかりと理解させていくとともに、その言葉を実際に使い説明する文章を書くなどして身近なものにしていく。
生命・地球	・本校の正答率は71.7%市の74.5%を下回ったが昨年度より差は縮まっている。 ・「生物とかんきょう」では草食動物を選ぶ問題で正答率が72.3%と市の正答率より11%低く、また「植物のつくりとはたらき」では光合成の条件の説明、「動物のからだのつくりとはたらき」では心臓の働きとその位置についてなど差の大きな問題がある。	・物理・化学・生理学的な現象については、その仕組みと結果について両方をかならず結びつけて教え、身近に見られる同じ原理により起こる現象と結びつけていくようにする。